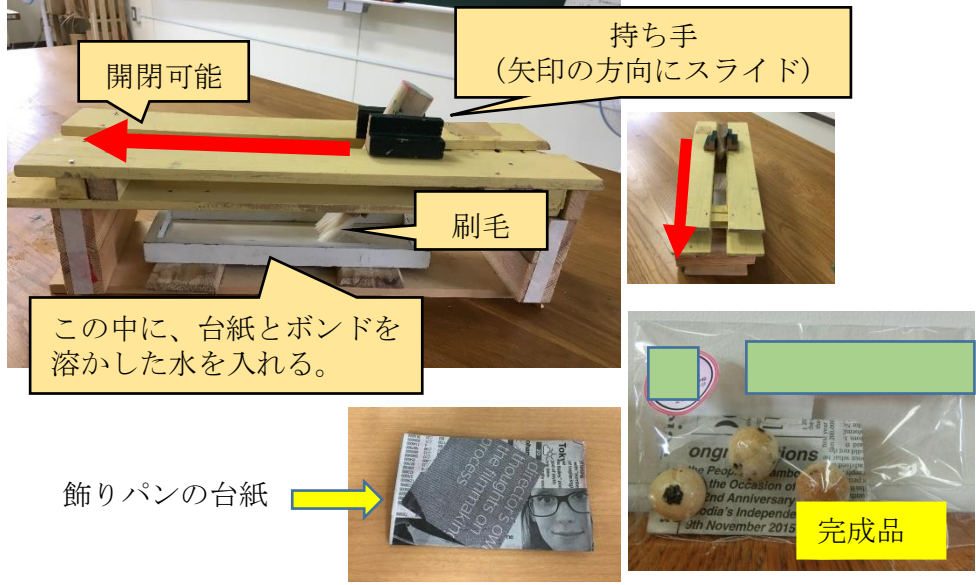


## 教材・支援機器活用実践事例

### 【身体の動きに困難さがある生徒への学習指導

### ～自分でできる体験から、身体の動きの向上を図る工夫～】

	実施年度	平成30年度
授業について	教科名等	作業学習
	単元・題材名	「販売会に向けて制作しよう」
	授業における教師のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が実施可能な工程を検討し、製品づくりに主体的に取り組めるようにする。</li> <li>必要な補助具を制作し、生徒の手指機能を高める。</li> </ul>
	授業における子どもの目標	容器を振る等の動きを取り入れた補助具を使い、奥から手前に引っ張り、製品を作ることができる。
子どもについて	学校・学級・学年	特別支援学校 重複障がい学級 高等部
	対象の障がい	知的障がい、肢体不自由
	授業の形態	各教科等を合わせた指導
学習上または生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>手指を使うこと、握ったりつまんだりすることに課題がある。</li> <li>用具を使って活動する経験が少ない。</li> <li>注目すべき所に注視することが難しい。</li> </ul>
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称：「飾りパン台紙づくり 補助具」 	
	活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>奥から手前に引く動作を獲得することができる。</li> <li>持ち手を握って使うことができる。</li> <li>用具を使った活動に関心をもち、自分から操作することができる。</li> <li>飾りパンの台紙に、ボンドを塗ることができる。</li> </ul>
授業における支援・教材の配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>○弱い力で持ち手が動くように、滑りをよくした。</li> <li>○持ち手は横から握っても、上から握っても使えるようにした。</li> <li>・刷毛を洗って使い、繰り返し使用できるよう、天板を開閉可能にした。</li> </ul>	
子どもの変容や評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○用具の使い方が分かり、教師が持ち手を握るように言葉をかけると自分から手を伸ばし、手前に引くことができるようになった。</li> <li>○使い始めた頃は、奥から手前に引く力の他に、上から下に押し付ける力が加わってしまい、持ち手が途中で動かなくなってしまうことがあったが、力を調整することができるようになり、引く力だけを加えることができるようになった。</li> <li>○製作活動だけでなく、日常の生活でも、肘から手首の力を使った動作ができるようになり、机を腰の位置まで持ち上げて運ぶこと、かかとの部分を下げて靴を脱ぐこと、お盆に牛乳をのせて移動することなど、身体の動かし方が分かり、行動の広がりが見られてきた。</li> </ul>	

